

真誠

最大の言語環境は教師

副校長 西村 太吾

「二期期になって子供同士の乱暴な言葉遣いが減りました。理由はよく分かりませんが。」と話す先生がいました。本人は「理由がよく分からない」と言っていますが、私にはそれが分かるような気がします。その先生は、子供たちにとっても丁寧な言葉で語りかけています。授業中はもちろん、休み時間も笑顔で優しく話すのです。そのおかげで、子供たちの言葉遣いも柔らかくなってきているのではないのでしょうか。

私が初めて一年生を担当したときのことです。私が「おはよう。」と挨拶をすると、子供たちも「おはよう。」と挨拶を返してくれました。「おはようございます。」と挨拶をすると、子供たちも「おはようございます。」と返してくれるのです。みんな担任の真似をするのです。その時私は、担任の影響は大きいと感じました。入学したばかりの一年生に対して、担任はどのような言葉を使えばかを考えなければならぬと強く感じました。

子供たちにとって、「最大の言語環境

学校だより
No.7

西東京市立
田無小学校

令和4年
10月28日

境は教師である」と言われます。子供たちは毎日、私たち教師の声、言葉遣い等に触れています。私たちの発する言葉が子供たちに影響を及ぼすのです。

私自身、担任をしていた頃は、目の前の子供たちを大切にしたいと思い、努めて丁寧で優しい言葉を使うようにしてきました。それでも乱暴な言葉を投げかけてしまうことがありました。が、そんな時は「相手を尊重できなかった。」と反省したものです。

もちろん私たちは、時には厳しく子供たちを叱らなければならぬこともあります。毅然とした態度で「ならぬものはならぬ」ということを示さなければならぬ時もあります。ですが、その根底に目の前の子供たちを大切に思う気持ちがなくてはなりません。このことを忘れずに指導をしていきたいものです。自分の気持ちが、発する言葉に込められていることを忘れずいたいものです。

「丁寧で優しい言葉遣い」と併せて、「正しい言葉」を使うことも私たちに求められています。SNSの普及で、極端に省略したり形を崩したり

した表現が飛び交うようになりました。流行の表現はどこか楽しく格好よく感じる場合があります。ですが、中にはあまりよくない意味が込められているものもあります。そんな言葉が教室に広がらないよう、私たちは常に「正しい言葉」を使うようにしたいと思っています。

私も授業中に子供たちの発言が活発になってくると、ついつい「超いいじゃん。」「お、マジか？」などと、くだけた表現をしてしまうことがあります。そんな時は、「子供たちにとって最大の言語環境は教師」を思い出し、自制するように心がけてきました。

今は子供たちの前で話す機会がぐっと減りましたが、それでもこのことを意識するようにしています。

学校でこのように気を付けている分、家では気を抜いて横柄な態度をしてしまいがちです。娘たちの言葉遣いが乱れがちなのは私のせいかもしれません…。



十一月の主な行事予定

30	29	28	25	24	23	22	21	18	14	11	10	9	8	7	4	3	2	1
水	火	月	金	木	水	火	月	金	月	金	木	水	火	月	金	木	水	火
音楽会リハーサル 読書月間終	クリーンアップ大作戦(3)	委員会	クリーンアップ大作戦(1)	クリーンアップ大作戦(6)	勤労感謝の日	モアレ検査(5)	クリーンアップ大作戦始(5) 音楽会係活動(5,6)	避難訓練	音楽会時間割始	セーフティー教室(6)	午前授業セーフティー教室(3) 研究授業	午前授業 セーフティー教室(4)	セーフティー教室(1・2)	セーフティー教室(5) 社会科見学(4)	遠足(2)	文化の日	午前授業 交通公園(わかば低学年) クラブ活動 世界友達プロジェクト(5)	安全指導 読書月間始 体育学習公開予備日

※今月のスクールカウンセラー来校日は4日、11日、18日、25日です。相談のある方は、来校日に直接又は、担任を通して申し込むか、来校日のAM9:00~9:20に463-5902(相談室直通)または学校に連絡してください。

赤城移動教室

六年担任 石井 康介

十月五日（水）～七日（金）に、二泊三日の移動教室に行ってきました。大自然に囲まれた、赤城青少年交流の家に宿泊し、学校ではなかなか体験できない貴重な体験をすることができました。

三日間とも雨が降り、山は霧で覆われていました。初めは、残念そうにしていた子供たちでしたが、活動しているうちに、先が見えない真つ白な世界に、自然の偉大さと好奇心を抱き始め、まるで冒険をしているような感覚を味わうことができました。

集団生活を通して、相手を気遣う心を育てることもできました。みんなで楽しむためには、みんなで少しずつ我慢しなくてはならないことを学びました。

これらの体験が、これからの学校生活、これからの人生の糧となるように、心に刻み続けてほしいと思います。

セーフティ教室

生活指導部 石川 博也

十一月七日（月）～十一日（金）に、セーフティ教室を行います。ランチルームにて、学年ごとに日程と時間を分けて、密にならないように配慮したうえで実施します。

一・二年生は「防犯・不審者対応」について、犯罪から身を守るために自分がとるべき行動について学びます。三年生は「万引き防止」について学び、万引きは絶対にしてはいけないことを確認します。四・五・六年生は「ケイタイ安全教室」を実施し、スマホやタブレットなどの正しい使い方について改めて確認する時間にしていきます。

児童一人ひとりが、事件やトラブルから身を守るために必要なことをしっかりと認識し、今後の生活に生かしてほしいと思います。

クリーンアップキャンペーン

生活指導部 谷本 絵里奈

十一月下旬から全校で「クリーンアップキャンペーン」を行います。掃除の時間、学年ごとに校庭に落ちている落ち葉をみんなで拾う活動です。

拾っても拾ってもなかなか減らない落ち葉の量に驚いたり、小さな落ち葉もごみ袋いっぱいになると重くて運べないことに気が付いたり、子供たちはたくさんの方に気付きながら活動をしています。たくさん拾ってきれいになった校庭を見て、満足げな表情をうかべる子もいます。

普段自分たちが使っている校庭を、自分たちの手できれいにするよさに気付ける活動にしていきます。

本を読めるように

学校司書 島原 圭子

本を読めるようになってほしい。これは多くの保護者の方の願いではないでしょうか。長いお話を読むようになるには、子供が「この先はどうなるのだろう、話の続きが知りたい」と思う本に出会う事が大事になってきます。読めないと思われる子供はまだ、お話を読む楽しさを知らないことが多いです。

田無小の読書月間が始まります。毎年、読書月間に配られる低学年、中学年、高学年別の「おすすめ図書リスト」には「続きが知りたい」と思える本がたくさん載っています。

今年には読書ビンゴ（しおりをゲットしよう！）や、例年通りの給食とのコラボ企画で本の中の食べ物や給食に出したり、トムテの会の皆さんにお話し会をしていただいたり様々な試みを計画しています。多くの児童が本を読めるようになってほしいです。